

秋まき青刈作物の王者！

多収で作り易い

青刈えんばく

豊

つくり易く、生育の早いしかも多収な青刈えんばくは、暖地の冬作飼料として、欠くことの出来ない貴重な作物です。早まきすれば、年内に1回刈れますし、春は早くから葉の多い青刈をとることが出来畑にも水田にも裏作が可能で、その利用価値は非常に高いものです。

雪印改良 101号

耐寒性の強い雪印改良品種で分けつ非常に多く良く伸長する極晩生の多収品種です。草質軟かく、草丈高くなりやや倒伏し易い傾向にありますので、利用に当っては早刈が有利です。

太 豊 (たいほう)

茎数が多く、稈も太く葉の量も多く、草丈の高い伸長型で相当の収量が得られる中生の雪印改良種です。暖地では秋まきして1~2度刈り、寒冷地では春まきして、1度刈の青刈及びサイレージ用に適しています。

豊 葉 (ほうよう)

その名の通り葉が非常に多く、葉重比の高い雪印改良種で草丈は前進、ビクトリー程度ですが、分けつ多く、生葉数多く、約2週間晩生の多収品種です。耐寒性極めて強く、再生力も強いので、2~3度刈に適しています。

前 進

子実用として最も広く栽培されている品種で、草丈やや低いが稈太く、葉幅の広い早生の多収種です。子実収量も多い。

ビクトリー

子実用品種で前進より4~5日出穂が遅く、草丈の高い品種で、生草子実収量の多い品種です。

岡 山 黒

極早生種で、草丈は短い早刈りできる寒さに強い品種。

えんばくの混播

えんばくは穂が出始めると硬くなりますから、刈遅れないこと、2度刈のときはあまり低刈りせぬこと、排水不良地はさけること、などが大切ですが、収量や栄養価を高めるため、まめ科のコモンベッチ、青刈えんどうまたはイタリアンライグラスを混播しましょう。

混播の要点

- 単播の場合 10 ㎡当たり 8~10 ㌦ですが、コモンベッチ混播ではえん麦の播種量を半分以下にする。
- 基肥は堆肥 2,000 ㌦、硫安 20 ㌦、過石 20 ㌦、塩加 5 ㌦とし、普通まきでベッチなどまめ科混播の場合は、窒素肥料を減じ、稲間中播の場合は、えん麦の量を増し、5 ㌦くらいにする。
- 混播はばらまきの方が成績が良い。
- 寒害の心配のある時はイタリアンライの混播が良い。
- イタリアンライを混播した場合、多少遅目に1番を刈り、1番はえんばくを主体に、2番はイタリアンライを主体とした刈かきをする。

混播例 (10 ㎡当たり, キロ)

えんばく 2~3	えんばく 2~3
ベッチ 4~5	ベッチ 4~5
	イタリアン 0.5
えんばく 3	えんばく 2~3
イタリアン 1.0	えんどう 7~8

水田地帯での酪農では、労力の調整と自給飼料生産をどうするかが成否の分れ目です。一部の水田を畑に戻して、それに自給飼料を作ることが大切です。一時、米の代金がへるようになると思いますが、水田作業の労力が減り、そこからは牧草や青刈作物が多収かくされ、畜産物代金となり入ってきます。

輪換畑への飼料づくりの準備

- ・排水を良くし、滲透水のないようにする。
- ・石灰を充分施して、酸性土壌は矯正する。
- ・播種前の砕土整地を充分にする。
- ・排水不良田では高畦として排水溝をつくる。
- ・夏または冬に灌水できるようにしておく。

輪換畑での飼料栽培例

- 採草地とする場合
水稲→えん麦牧草混 (輪換畑1年目)→牧草 (2年目)→牧草 (3年目)→牧草 (4年目)→デントコーン (5年目)→水稲 (6年目に水田還元)→水稲
- 放牧地とする場合
水稲 (早期稲, 牧草中まき)→放牧 (輪換畑1年目)→放牧 (2年目)→晩期水稲 (3年目夏に水田還元)
- 連続多毛作とする場合
水稲 (晩期稲)→ライ麦 (或いはレープ, イタリアン) (1年秋まき水田裏作)→えんばく或いはかぶ, デントコーン (2年目, 春まき夏どり)→ひまわり或いは青刈大豆 (2年目夏まき, 秋どり)→ライ麦或いはレープ, イタリアン (2年目秋まき)→水稲 (早期稲3年目)

田畑輪換での

飼料作り



寒さに強い早春の青刈作物！

■ コモンベッチ

寒地では春まき、暖地では秋まき冬作の1年生まめ科草で、生育早く、蔓となつて伸びるので、主に、えんばく、ライ麦、イタリアンライまたはクロバー類の混播相手として利用され、嗜好の良い蛋白の多い青刈を生産します。水田裏作、麦類の飼料輪換畑、桑園の間作などに容易にとり入れられ、また緑肥としての効果も高く地力の増進にも役立ちます。

■ ヘアリーベッチ

コモンベッチより更に耐寒性強く、寒冷地でも越冬しますので、ライ麦の混播用として、コモンベッチと同様に利用されます。

■ 紫雲英（れんげ）

日本で古くから水田裏作として広く利用されている越年生のまめ科草で、嗜好性も良く、栄養価もあり、逐次青刈給与とするのに適しています。湿田では生育が悪いので、このような所では、アルサイクロバー、レープなどを利用します。

■ レープ

誰でも知っている「なたね」の青刈用品種で作り易く、水田裏作、園地の間作、畑地に単播または青刈麦類と混播して、早春の青刈飼料として貴重な作物です。寒さに強く、弱酸性地、湿田にも良く生育し、寒地暖地共に秋まきして、多収なものです。COは合成なたねで飼料としての生産量の多い優良種です。

■ 青刈えんどう

青刈麦類の混播相手として耐寒性、耐湿性が極めて強く分枝多く、葉の生産の多い飼料用青刈えんどうです。



コモンベッチ

生育早く短期間に多収

■ 青刈デントコーン

デントコーンは夏の暑い時にグングン伸びます。60日あれば1.5畝位となり、青刈できますので、暖地では8月上中旬までまくことができます。できるだけ密播（10畝当10畝以上）し60畝畦に15畝株間か或いは条播が多収です。

■ ひまわり

短期間に旺盛に生育し、ヤセ地でも良くでき、非常に作り易い作物です。デントコーンよりやや嗜好は劣りますが、栄養価高く、晩秋の青刈、或はサイレージ飼料としても価値高いものです。大葉多葉性ひまわりは葉重の大きい青刈用の優良品種です。

■ スーダングラス

暑熱と早ばつに強く、夏の暑い時期にグングン生育するいね科夏作物で、普通春まきして、秋までに数回刈取りますが夏まき秋どり作物としても充分利用でき多収です。

■ ソルゴー

スーダングラスと同様、暑熱と早ばつに強いいね科夏作物で、春まきして夏～秋にかけて利用しますが、夏まいて短期間に収かくすることもできます。

■ 青刈大豆

高温多湿を好む夏作物で、蛋白含量の多い栄養価の高い1年生まめ科作物です。春まき夏どりが主ですが、短期間に生育するので、夏まき秋どりも充分可能です。（本秋品種）



○寒冷地の場合

気候的に制約されますので、耐寒性の強いものか、生育の早いものに限られます。最もやり易く心配のない方法はつぎの通りです。

- 麦やナタネの夏作跡地になるべく早く青刈デントコーンやかぶを作り、年内に利用します。
- 寒さに強いライ麦、レープ、ヘアリーベッチ、えんどうを単播で或いは混播して秋まきすれば、翌春青刈作物の少ない時期に豊富に収かくされます。

○暖地の場合

寒冷地ほど気候に制約されなく、このためいろいろのやり方があり、利用される飼料作物の種類も多いものです。

- 夏作跡地に青刈デントコーン、かぶ、ひまわりを作り、その後すぐに青刈麦類、イタリアンライなどの冬作物を播種します。
- 畑の裏作栽培とも言える方法で、えんばく、ライ麦、イタリアンライ、レープ、かぶ等を秋まきして、冬から早春にかけて収かくします。
- 飼料専用圃を利用して、作物の生産適期、収量、栄養価、肥培管理を考慮し、たえず作付をくり返す青刈の多毛作も単位面積当りの収量が上がり、とくに狭い耕地で、種々の自給飼料を収かくすることができます。夏期間は青刈デントコーン、スーダングラス、ソルゴー、青刈大豆を作付し、その跡地あるいは中播として、秋にえんばく、ライ麦、イタリアンライ、かぶ、レープ、ベッチなどを播種します。

作り易く生育の早い多汁質飼料

家畜かぶ

作り易く、短期間に生育するかぶは耕地の狭い酪農にびったりした多収の根菜です。嗜好も良く、貯蔵も出来、家畜の食慾を高め、ビタミンを補給し、泌乳をうながします。水田、畑の裏作や多毛作としてたやすく増産できる多汁の家畜かぶを作りましょう。

雪印改良紫かぶ

生育日数 80 日の極早生種で、短期間で多収かくできます。莖葉部分は少ないが根部の肥大早く、早どり用、遅まき用として利用価値が大です。

雪印改良下総かぶ

生育日数 110 日の晩生種で貯蔵力高く葉部収量も多く、根部の収量も多収な巨大種です。主に秋の生育期間の長い関東、関西地方に適しております。スエーデンカブやせんだいかぶはルタバガの日本名でこの品種ではありません。

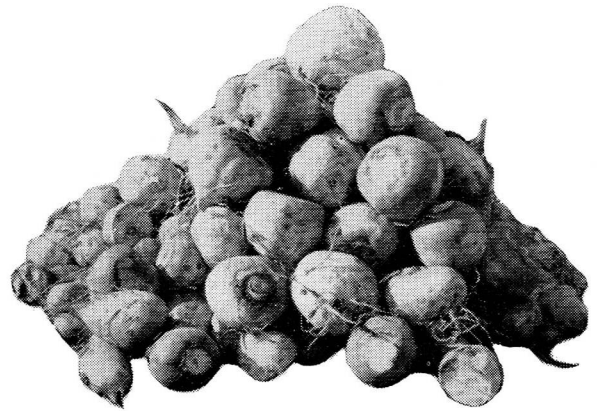
小岩井かぶ

生育日数 100 日の中生種で、莖葉部の生産量も多く、根

部の収量も優れています。主に東北地方に適する品種です。

セブントップ

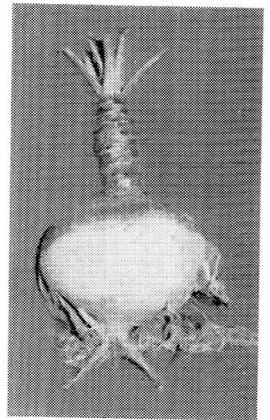
生育日数 130 日の極晩生種で、根部巨大、関西以西の暖地で多収かくされます。



改良紫かぶ

秋まきかぶ・増収のポイント

- 施肥 肥……多肥が必要で堆肥の肥効が大きい。
基肥として、堆肥 1,200 キロ、硫酸 40 キロ、過石 40 キロ、硫酸 15 キロ、追肥として尿素 20 キロ。
- 播種期……寒地では 7 月下旬～8 月上旬まで、暖地では 8 月下旬～9 月中旬までまくことができます。
- 播種法……畦幅 60～70 センチ、株間 25 センチの点播または条播します。ときには散播して、逐次間引収かくしたり、牧草中に混播して逐次収かくする方法もあります。
- 間引……本葉 5～6 枚のとき、必ず 1 本立とします。
- 病虫害の防除……発芽当初に地のみ有害があるので BHC、DDT をまいておく。
- 収かくと貯蔵……播種後 60～70 日から収かくできますが、貯蔵用は充分生育させた方が安全です。
逐次抜きとって与えるか、寒地では掘りとって、莖葉部を切断し、凍結しないように貯蔵します。



せんだいかぶ、スエーデンカブというのは一かぶ一ではなく写真のようなルタバガです。

省力多収に

かぶの

バラまき栽培

- 1 夏作収かく跡地を耕起して晴天時に 2～3 回ハローや耕転機で雑草退治を
- 2 整地が終れば 10 万平方メートルあたり硫酸 20 キロ、過石 25 キロ、硫酸 12 キロ前後の肥料にかぶの種子 70～80 グラムを肥料とよくまぜて畑全面にむらなく撒布
- 3 まき終わったらローラーで覆土と鎮圧
- 4 発芽後は害虫に注意
- 5 間引き、除草は行ないません
- 6 普通では 10 万平方メートルから 2 万～3 万個体収かく出来、普通栽培に較べて 60～80 %は増収
- 7 貯蔵の場合は大小をわけて、大きいものは早期に給与

